MUFGグループ 行動規範 2025

MUFG Group Code of Conduct

三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFG

目　次

グループトップメッセージ …… 01

はじめに

1 MUFG Way と行動規範 …… 02
2 行動規範（本文） …… 03
3 行動規範とは …… 05
4 行動規範に反した場合 …… 06
5 「上司」の役割と責任 …… 07

行動規範

第 1 章
お客さまに対する姿勢　08

1-1 誠実な行動 …… 09
1-2 品質の追求 …… 10
1-3 期待を超えるサービスの提供 …… 11

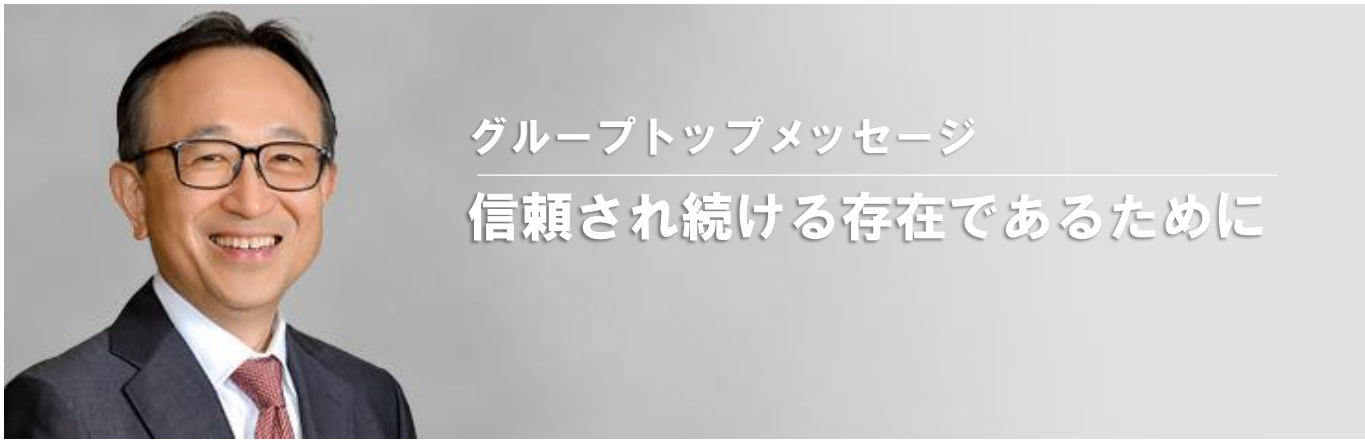
第 2 章
社会に対する責任　12

2-1 社会ルールの遵守 …… 13
2-2 金融犯罪・反社会的勢力への対応 …… 14
2-3 社会への貢献 …… 15

第 3 章
職場における心構え　16

3-1 挑戦とスピード …… 17
3-2 働きやすい職場 …… 18
3-3 会社の資産・財産の取り扱い …… 19
3-4 問題事象の報告・相談 …… 20

（注：各章の解説は、1～4や●で記載しています。）



私たちは大きな変化の時代の中にいます。

人々の考え方や価値観は分散、分断が進み、多様化する一方で、デジタル技術の発展により、さまざまなものが時間と場所を超えて瞬時につながります。また、環境変化のスピードが加速する中、企業も、スピードをもって変化に向き合い、行動することが求められています。この様な分断の時代において、MUFG では、世界中のあらゆるステークホルダーを「つなぐ」存在として、パーパスである「世界が進むチカラになる。」の実現に取り組んでいます。また、「信頼・信用」、「プロフェッショナリズムとチームワーク」、「挑戦」とともに「スピード」をバリューとして提供することで、社会の変化をリードし、信頼される企業を目指します。そのためには、皆さん一人ひとりが、パーパスやバリューを自分のストーリーとして、自らの業務や役割に結び付け、誇りを持てるキャリアの実現につなげていくことが重要です。

MUFG Way は、パーパスに加えて、共有すべき価値観であるバリュー、中長期的にめざす姿としてのビジョンで構成されています。MUFG グループが経営活動を遂行するに際しての基本的な姿勢であり、すべての活動の指針です。

行動規範は、この MUFG Way の下、私たちが信頼され続ける存在であるために、グループの役職員が日々いかに考え、判断し、行動すべきかの基準であり、「正しい行動」を実践するための指針です。言い換えれば、この皆さんの日々の「正しい行動」の上に私たちの信頼は成り立っているといえます。日々の業務で判断に迷うときは、この行動規範に立ち返ってください。そして、ご家族や友人の顔を思い浮かべ、自分の行動が「正しい行動」かよく考えてみてください。

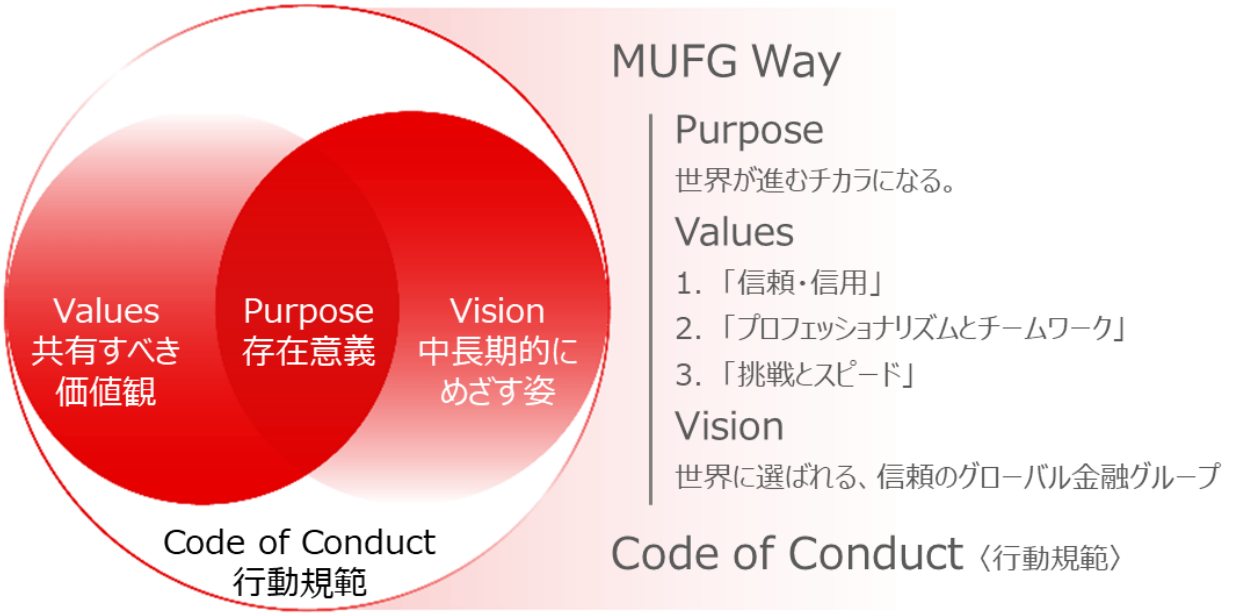
また、あなたの周囲で何か「おかしい」と思うことがあったら、すぐに上司や内部通報窓口に報告してください。「声をあげること」は正しい行動であり、皆さんの責務でもあります。MUFG グループ各社は、皆さんが声をあげやすい雰囲気づくりに最大限努めます。そして、声をあげてくれた場合には、その勇気を評価し、真摯に対応します。誠実な報告に対する報復措置は、経営の責任において絶対に許しません。

行動規範は「読み物」で終わってはいけません。具体的な「行動」に繋げることが大切です。私たち一人ひとりが、日々の業務において常に「正しい行動」を実践することで、お客さまや社会から「信頼され続ける存在」となれるよう、共に頑張りましょう。

2025 年 4 月
取締役代表執行役社長 グループ CEO
亀澤宏規

1 MUFG Way と行動規範

MUFG Way は、従業員一人ひとりが社会における存在意義（Purpose）を認識し、MUFG グループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢を示したものであり、すべての活動の指針です。
また、行動規範は、MUFG Way の下に、グループの役職員が日々いかに判断し行動すべきかの基準を示すものであり、下支えする大切なものです。



Check

企業文化（カルチャー）とは

企業文化（カルチャー）とは、役職員が共有する思考・行動パターンのことです。MUFG Way や行動規範のように明文化されたものだけでなく暗黙的に共有されているものも含まれ、役職員の行動や意思決定に大きな影響を及ぼし得ます。

安心・安全なサービスの提供により築き上げてきた「信頼・信用」は MUFG の強みであり、MUFG グループの役職員が共有する価値観のひとつです。同時に、変化の激しい時代にどうすればステークホルダーのニーズに応えられるか、「プロフェッショナリズムとチームワーク」を発揮すると共に、一人ひとりが主体的に考え、決断し、直ちに行動に移していく「スピード」を伴った「挑戦」の重要性が増しています。MUFG Way と行動規範をよく理解し、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」にふさわしい企業文化を共に築きましょう。

2 行動規範（本文）

第１章

お客さまに対する姿勢

私たちは、常にお客さま本位で考え、お客さまの信頼・信用に応えます。MUFG グループが今日あるのは、これまで長い間、お客さまからの信頼・信用に支えられてきたからにほかならず、これをさらに確固たるものにしていく為に、目先の収益にとらわれず、持続的にお客さまの発展を支えます。

1-1 誠実な行動

常にお客さま本位で考え、公正・透明な企業活動を誠実に行います。お客さまの最善の利益を図り、お客さまの資産を適切に取り扱います。

1-2 品質の追求

お客さまとの末永い信頼関係を築くために、お客さまの声に耳を傾け、商品・サービスの企画・開発から提供、その後の見直しに至るまで、品質の管理を徹底し、改善に努めます。

1-3 期待を超えるサービスの提供

世界のお客さまの多様なニーズに対し、プロフェッショナルとして、グローバルなネットワーク、グループの総合力を活用して、変化をリードし期待を超えるサービスの提供をめざします。

第２章

社会に対する責任

グローバルに事業を展開する中で、国内外のあらゆる法令等を遵守し、金融システムの安定・信頼維持を図り、社会の健全な成長に貢献します。一人ひとりが MUFG グループの一員としての責任を自覚し、公正・透明な企業活動を誠実に行い、これまで築き上げてきた社会からの信頼・信用を守り、高めます。

2-1 社会ルールの遵守

国内外のあらゆる法令やルールを遵守することはもとより、高い倫理観にもとづいた正しい行動をとります。社会インフラである金融システムの機能不全や MUFG グループの信用失墜を防ぐため、以下を含め業務に関係する法令やルールを遵守します。

2-2 金融犯罪・反社会的勢力への対応

金融犯罪および金融犯罪防止に係る規則・手続を潜脱しようとする試みを一切許容しません。商品・サービスが各種金融犯罪、マネー・ローンダリング（資金洗浄）およびテロ活動への資金支援等に関係する個人および団体に利用されないよう努めます。

2-3 社会への貢献

各地域の歴史・文化・慣習等を尊重し、企業活動や役職員の社会貢献活動等を通じて、地域・国際社会の発展や環境の保全に貢献します。

第３章

職場における心構え

絶えず変化・多様化する顧客ニーズや外部環境の変化をいち早くとらえ、迅速に行動します。役職員同士が、お互いを尊重し、プロフェッショナルとしての個人の力と地域・業態を越えたチームワークが最大限発揮され、新しい試みに取り組むことができる職場をつくっていきます。そして MUFG グループがこれまで築き上げてきた有形・無形の資産・財産をしっかりと守ります。

3-1 挑戦とスピード

チーム力を最大限発揮し、環境の変化をチャンスととらえ、新たな分野に挑戦していきます。また、一人ひとりが知識・専門性・人間力を高めるとともに、変化をリードするために主体的に考え、決断し、直ちに行動に移していきます。

3-2 働きやすい職場

全役職員の人権と多様性を尊重し、差別やハラスメント等を行わず、見逃しません。

3-3 会社の資産・財産の取り扱い

MUFG グループ各社の有形・無形の資産・財産を守り、これを毀損するような行為を許しません。

3-4 問題事象の報告・相談

法令・社則等や本行動規範に違反する行為等に気づいたら、速やかに職場の上席者に報告・相談、あるいは内部通報制度等を通じて報告します。

3 行動規範とは

（1）疑問を持ったり、正しい選択かどうか判断が難しいといったジレンマに直面した場合には、この行動規範に立ち返りましょう（グループ各社・事業本部等でより具体的なものがある場合はそちらも参照してください）。

（2）少しでも迷ったら、以下の観点でチェックしてみましょう。

☑	行動規範や社内外の法令・諸規則等に反していませんか？
☑	自身の行動を正当化するため、自分の良心をごまかしていませんか？
☑	その行動が他人から不適切とみなされる可能性はありませんか？
☑	家族や親しい人々に対しても、同じような行動がとれますか？

（3）役職員は、原則として、年に一度行動規範に関する研修を受けるとともに、MUFG グループ行動規範を確認する旨、各社で指定された形式で意思表示する必要があります。

Check

こんな言葉に要注意！

自分やほかの人が次のような言葉を使ったら、注意が必要です。

・「みんなやっているから、自分もいいだろう・・・」
・「普通は〇〇」「このくらいは業界慣行として許容される」
・「今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫・・・」
・「自分に限っては大丈夫」「うちの部署には関係ない」
・「今さら引き下がれない」

背景に、思考の同質化や自分の価値観や経験にもとづく「アンコンシャス・バイアス」（無意識の偏見）が隠れているときに使われやすいフレーズです。

おかしいなと思っているけど皆がやっていること、過去からやっていることへ声をあげるのは勇気がいるかもしれませんが、それはいつの間にか、社会の常識からかけ離れてしまっているかもしれません。

「本当にそうかな？」と立ち止まり、行動規範に立ち返って柔軟に考え、行動していきましょう。

4 行動規範に反した場合

（1）役職員は、行動規範ならびに法令、諸規制および MUFG グループ各社の規則・規定・手続等を遵守しなければなりません。万が一、違反した場合は、MUFG グループ各社が別途定める就業規則等にもとづき、解雇を含む懲戒処分の対象となることがあります。また、MUFG グループ各社の名誉・信用を傷つけ、あるいは会社の利益を損なうような役職員の行為は、個人的に責任を負うことがあります。

（2）他者の遵守事項違反や、MUFG グループ各社の信用を傷つけ、会社の利益を損なうと思われる他者の行為を知りながら対応しなかった場合や、知っているべき責任ある地位にあるにもかかわらず放置した場合、その行動（または、行動しなかったこと）に対して責任を問われる場合があります。

（3）役職員の行為は、規制当局および他の政府機関に報告される場合があります。それらの調査の結果によっては、罰金、金融業界での資格はく奪、または懲役刑を受ける場合があります。

Q A 「期待を超えるサービスの提供」や「挑戦とスピード」が実践できない場合も「行動規範に違反した」として処分されるのでしょうか？

行動規範には、「誠実な行動」「社会ルールの遵守」「金融犯罪・反社会的勢力への対応」など**「遵守すべきもの」**と、「期待を超えるサービスの提供」「挑戦とスピード」のような**「努力すべきもの」**が混在しています。
「努力すべきもの」ができていないからといって、処分されることはありません。

Check コンダクト・リスクとは

法令等の既存のルールの遵守にとどまらず、①社会規範にもとる行為、②商慣習や市場慣行に反する行為、③利用者の視点の欠如した行為等は、お客さまや株主をはじめとしたステークホルダーの利益を侵害し、その結果、私たちの企業価値、収益、レピュテーションに悪影響を及ぼす可能性があります。このようなリスクを、「コンダクト・リスク」と呼びます。

5 「上司」の役割と責任

「上司」の立場にある役職員は、一般従業員に加え、次のようなより高度な役割と責任を負います（ここでいう「上司」とは、主として部店長や次課長など一定の組織の長を指します）。

① 自ら模範を示し、MUFG Way や行動規範に示された行動を積極的に実践する。
② 日頃から、MUFG Way や行動規範の内容を各組織に応じた形で部下に伝える。
③ 判断に迷った時や問題が発生した時に躊躇無く発言できる雰囲気作りに努める。
④ 上司としての立場の濫用と見られかねない行為は厳に慎む。
⑤ 問題が発生した場合、上位の役職員に迅速に報告するなど適時適切に行動する。

Check

「良いチーム」の条件とは？

「良いチーム」とはどういうチームでしょうか？人によってイメージは様々ですが、「良いチーム」に共通する条件の１つは、チームの心理的安全性が高い状態にあることではないでしょうか。

心理的安全性とは、「自分の考え、意見、気持ちなどを組織の誰に対しても安心して率直に言い合える状態」のことです。例えば、誰かの意見に対する反論、ミスや失敗の報告などを安心して言える環境です。このような安心感があれば、創造的なアイデアや既存の考え方を覆すような発想が出やすくなります。また、場の空気に流されることなく、おかしいと思うことを指摘出来るようになります。一人ひとりに意見や考えはあるものです。

自由で闊達な職場づくりのために皆で取り組んでいきましょう。

第１章

お客さまに対する姿勢

私たちは、常にお客さま本位で考え、お客さまの信頼・信用に応えます。
MUFG グループが今日あるのは、これまで長い間、お客さまからの
信頼・信用に支えられてきたからにほかならず、
これをさらに確固たるものにしていく為に、
目先の収益にとらわれず、持続的にお客さまの発展を支えます。

1-1 誠実な行動

常にお客さま本位で考え、公正・透明な企業活動を誠実に行います。お客さまの最善の利益を図り、お客さまの資産を適切に取り扱います。

1 誠実な行動

- 常にお客さま本位で考え、公正・誠実に行動し、持続的な発展を支えます。

2 お客さまの資産の保護（含む情報）

- お客さまからお預かりする現金や有価証券等ならびに情報は、お客さまの大切な資産であることを常に意識します。
- お客さまからの信頼・信用にもとづいてお預かりした資産は適切に取り扱い、細心の注意を払って管理します。
- 情報は、お客さまのご意向を踏まえたうえで、業務上の必要性がある場合に限り、業務上の目的の範囲内で利用および提供し、情報の機密性と安全性ならびにお客さまのプライバシーを守ります。

3 お客さまの利益の適切な保護

- お客さまの最善の利益を図るために、公正・誠実に行動し、高い倫理観と責任をもって業務活動にあたります。
- グループ各社との取引において、お客さま同士、あるいは、お客さまとMUFG グループの間で利益が対立する可能性があることを認識し、利益相反管理の基本方針に則り、適切に行動します。

Check

信頼・信用は一日にして成らず

私たちの業務は、お客さまからの信頼・信用があって成り立ちます。
信頼・信用は一朝一夕には得られないものである一方、たった一人の間違った行動により、一瞬で崩れ去ることもあります。だからこそ、一人ひとりの誠実な行動の積み重ねが欠かせません。このことを役職員全員が肝に銘じ、実践することで健全な組織風土がつくられます。この意識を常に忘れてはいけません。

今一度、自分自身が MUFG グループの一員としてふさわしい行動ができているのか、考えてみましょう。そのうえで、それぞれがお互いに周囲にも関心を持ち、些細な気づきでも、オープンかつ闊達に皆でコミュニケーションしましょう。そうすることが、健全な組織風土を築くことに寄与し、結果として問題の早期発見にも繋がります。

1-2 品質の追求

お客さまとの末永い信頼関係を築くために、お客さまの声に耳を傾け、商品・サービスの企画・開発から提供、その後の見直しに至るまで、品質の管理を徹底し、改善に努めます。

1 お客さまにふさわしい商品・サービス

- お客さまから信頼され末永く良好な取引関係を築くためには、商品・サービスにかかわるすべてのプロセスで、品質管理を徹底していくことが重要です。
- お客さまにふさわしい商品・サービスを開発・提供し、取引を正確・安全に行います。
- 商品・サービスの提供にあたり、以下に努めます。

①企画・開発段階では、対象のお客さまとニーズを明確に
②リスクは、お客さまが理解でき、かつ許容できる範囲内で
③ご提案は、目的・ニーズ、知識・経験、財産状況等に合わせて
④商品の内容やリスクを理解・納得いただける正確でわかりやすい説明を
⑤公正・丁寧・真摯な応対を

2 品質改善への絶えまない努力

- お客さまにご提供した商品・サービスがお役に立っているかを常に確認し、商品・サービスの品質の改善に努めます。

Check

真のプロとは

私たちは、お客さまに対して公正・誠実に業務を行い、お客さまの最善の利益を図る必要があります。

真のプロは、社会や外部環境の変化を捉え、業務に関連する法令やルールを正しく理解し、行動します。
また、重要な情報をわかりやすく説明し、お客さまに相応しい商品・サービスを提供します。

個々の業務の専門性を磨くと共に、お客さまの求めていることは何か、それを受け止める感性と感度も磨きましょう。

1-3 期待を超えるサービスの提供

世界のお客さまの多様なニーズに対し、プロフェッショナルとして、グローバルなネットワーク、グループの総合力を活用して、変化をリードし期待を超えるサービスの提供をめざします。

1 専門性・スピードの追求

- 絶えず多様化・高度化しているお客さまのニーズに先進性をもって迅速に応えるため、一人ひとりが専門性やスピードを高めていきます。

2 グループ総合力の発揮

- 多様な業態が結集する MUFG グループの総合力を活かし、一体となって、お客さまの期待を超えるサービスの提供をめざします。

3 グローバル・ネットワークの活用

- グローバルなネットワークを活用し、世界最高水準の商品・サービスを提供します。

Check

変化の時代には何が必要か

今は変化の激しい時代と言われています。変化はリスクであると同時に、新しいビジネスチャンスにも繋がります。変化が目まぐるしい環境では、前例やルールにとらわれすぎると、時にどこに向かうかわからなくなる時があるかもしれません。そうした時には、自分自身や MUFG グループが何のために存在するのか、原点に立ち返り、見つめ直してください。自ずと進むべき方向が見えてくるはずです。

お客さまから信頼・信用を得続けるためには、変化に迅速かつしなやかに対応することが不可欠です。

第２章

社会に対する責任

グローバルに事業を展開する中で、国内外のあらゆる法令等を遵守し、
金融システムの安定・信頼維持を図り、社会の健全な成長に貢献します。
一人ひとりが MUFG グループの一員としての責任を自覚し、
公正・透明な企業活動を誠実に行い、これまで築き上げてきた
社会からの信頼・信用を守り、高めます。

2-1 社会ルールの遵守

国内外のあらゆる法令やルールを遵守することはもとより、高い倫理観にもとづいた正しい行動をとります。
社会インフラである金融システムの機能不全や MUFG グループの信用失墜を防ぐため、以下を含め業務に関係する法令やルールを遵守します。

1 インサイダー取引の禁止

- インサイダー取引は、多くの国で違法とされ、金額の多寡にかかわらず厳重に規制されていることを認識し、疑われる行為をしません。
- 重要情報を厳格に管理し、非公開の重要情報（MNPI）を利用して不当な利益を得る行為には関与・加担しません。

（※）Material Non-Public Information

2 不公正な取引の禁止

- 公正・透明・自由な競争市場の参加者の一員として、不公正な取引（カルテル、優越的地位の濫用、相場操縦的行為等）に関与しません。
- ファイアーウォール規制やアームズ・レングス・ルールを含め、公正な取引を保つために制定された法令やルール等を遵守します。

3 不適切な接待贈答の禁止

- 以下に沿って、お客さま、取引業者等との接待・贈答を適切に実施します。
  - 業務推進のために有効かつ必要であること
  - 華美、高額、頻繁でない等、社会儀礼の範囲内であること
  - 社会の疑惑や不信を招く疑念がないこと

4 記録の取り扱いと適切な情報開示

- 財務情報をはじめ、業務上の記録（コミュニケーションに関する記録を含む）を正確に記し、適正に維持・管理します。
- 社会で正しく理解・評価されるために、財務状況を含む企業情報を適時・適切に開示し、不正確・不適切な情報開示や情報の隠ぺいは行いません。

2-2 金融犯罪・反社会的勢力への対応

金融犯罪および金融犯罪防止に係る規則・手続を潜脱しようとする試みを一切許容しません。商品・サービスが各種金融犯罪、マネー・ローンダリング（資金洗浄）およびテロ活動への資金支援等に関係する個人および団体に利用されないよう努めます。

1 金融犯罪への対応と金融サービス濫用の防止

- MUFG グループが国内外で提供する金融サービスが、下記のような犯罪や不法行為等に悪用される可能性に留意し、防止に努めます。
  - マネー･ローンダリング、テロ活動への資金支援
  - 経済制裁への抵触
  - 贈収賄や腐敗行為へ加担もしくは促進
  - 脱税行為の幇助
  - 振込詐欺、投資詐欺、偽造・盗難カード等による金融犯罪

2 贈収賄行為の禁止

- 贈収賄・汚職防止に取り組み、以下の行為はしません。
  - 不当に利益を得る目的の金銭・利益の提供・受領
  - MUFG グループの意思決定に影響を及ぼし得る金銭・利益の提供の要請・受領
  - これらを隠ぺいする業務上の記録の改ざん・隠匿
- 特に公務員等が関わる接待・贈答、採用、業務委託、寄付などにおいても、贈収賄・汚職防止のルールを遵守します。

3 反社会的勢力との関係遮断

- 反社会的勢力と一切の関係を遮断します。警察・弁護士・外部専門機関と緊密に連携し、役職員の安全を確保します。

Check

失敗に学ぶ

日常的に各種メディアで企業の不祥事が報じられていますが、「自分たちとは無関係」ではありません。実際に MUFG グループ企業でも、不祥事は発生しています。失敗については、真因分析のうえ再発防止策を講じ、それを徹底しなければなりません。

さらに、物事の本質や目的をよく理解すると共に、基本ルールの遵守など「できていると思っていたことが、本当にできているのか」という健全な懐疑心を持つことが大切です。疑問に思うことがあれば、一人で抱え込まず、ぜひ声をあげてください。

他者の失敗や自分たちの失敗に謙虚に学び、一人ひとりがリスクオーナーシップを発揮しつつ、職場全体で継続的に改善や是正に取り組んでいくことが不適切事案や不祥事の未然防止に繋がります。

2-3 社会への貢献

各地域の歴史・文化・慣習等を尊重し、企業活動や役職員の社会貢献活動等を通じて、地域・国際社会の発展や環境の保全に貢献します。

1 社会・地域への貢献

- MUFG グループは、良き企業市民として人権尊重に努めつつ、積極的に社会・地域に参画し、発展に貢献します。
- 地域・国際社会の一員として、自発的に社会貢献活動に取り組みます。

2 環境への配慮

- MUFG グループは、企業活動の環境負荷低減にとどまらず、気候変動への対応や環境保全に寄与する商品やサービスの開発・提供に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

Check

環境・社会課題解決への取り組み

「SDGs」「ESG」「気候変動・カーボンニュートラル」「少子・高齢化」「生物多様性」「人権保護・尊重」、こうした環境・社会課題のキーワードをニュースで聞かない日はないと思います。

こうした潮流の加速を踏まえて、MUFG グループでは、カーボンニュートラル社会の実現・人権尊重などの優先課題を起点に、金融商品・サービスの提供や社会貢献活動等を通じ、持続可能な未来の実現に向け取り組んでいます。

サステナビリティに対する関心とともに、MUFG グループに期待する社会の目線は、今後もさらに高まっていくでしょう。

私たち社員一人ひとりが「どのようにお客さまや社会に貢献できるのか」を考え、小さなことでも行動に移すことが大切です。

第３章

職場における心構え

絶えず変化・多様化する顧客ニーズや外部環境の変化をいち早くとらえ、
迅速に行動します。役職員同士が、お互いを尊重し、プロフェッショナルと
しての個人の力と地域・業態を越えたチームワークが最大限発揮され、
新しい試みに取り組むことができる職場をつくっていきます。
そして MUFG グループがこれまで築き上げてきた
有形・無形の資産・財産をしっかりと守ります。

3-1 挑戦とスピード

チーム力を最大限発揮し、環境の変化をチャンスととらえ、新たな分野に挑戦していきます。また、一人ひとりが知識・専門性・人間力を高めるとともに、変化をリードするために主体的に考え、決断し、直ちに行動に移していきます。

1 一人ひとりの成長

- お客さまのニーズの高度化や多様化に対応した商品・サービスを提供するプロフェッショナルとして、主体的に考えて迅速に行動し、成長していくことに努めます。
- 仕事を通じ、また、社内外の研修や自己研鑽等の機会を活用し、一人ひとりが、能力・スキル・人間力の向上に努めます。また、そうした取り組みを積極的にサポートします。

2 チームワーク

- 情報・スキル・ノウハウを共有し、チーム力を最大限に発揮することに努めます。

3 チャレンジ精神

- 世の中の動きや環境の変化をチャンスとしてとらえ、新しい取り組みを続けます。また、積極的にチャレンジする従業員をサポート、評価します。

Check

「行動」に移す

どれだけよい考えがあっても、実際にアクションを起こさなければ、何も生まれません。

ささいなことでも構いません。皆さんが勇気を持って踏み出した「行動」が積み重なることが、組織の「挑戦」「成長」に繋がるのです。

「上司の指示がないから」「自分の部の役割ではないから」などの理由で、問題に気づいていながらも、何もしなかったということはないでしょうか。

変化が激しく、「スピード」が重要な現在の環境においては、これまで以上に、皆さんの「行動」が鍵となります。主体的に考え、決断し、直ちに行動に移していってください。

3-2 働きやすい職場

全役職員の人権と多様性を尊重し、差別やハラスメント等を行わず、見逃しません。

1 ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DEI）

- MUFG グループでは、世界 50 か国以上に人種、国籍、出生地、信条、宗教、ジェンダー、性的指向、性自認、性表現、年齢、障がい、健康状態などがさまざまな役職員が働いています。
- 役職員の多様性は、豊富なアイデアと豊かな職場をもたらすものであり、MUFG グループの持続的成長・発展に不可欠です。
- すべての役職員の多様性・多様な価値観を尊重し、差別、人権侵害、ハラスメントを許さず、公平な雇用機会を提供します。

2 健全で闊達な職場環境

- 職場の仲間同士が、立場を問わず、誠実に接し、助け合い、尊重しあう、心身の健康と安全が意識された、「健全」で「闊達」な職場環境をめざします。

3 ノー・ハラスメント

- ハラスメントは個人の尊厳を損ない、組織運営にも重大な影響を与えます。セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等、社内・社外を問わず、あらゆるハラスメントを行わず、見逃しません。

Check

多様性が活きる職場づくり

MUFG グループの持続的な成長・発展

ダイバーシティ	×	エクイティ	×	インクルージョン
それぞれの多様性・多様な価値観が尊重されること		一人ひとりの違いに合わせた必要な機会・サポートが提供されること		誰もが認められ、活かされ、高めあう組織であること

一人ひとりの多様性は、すべての役職員が互いに認めあい、尊重しあい、公平・公正な機会を提供されながら高めあうことで真のチカラを発揮します。

「ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン」は、MUFG グループが社会やお客さまに価値を提供し続け、持続的な成長・発展を遂げるための重要な鍵なのです。

3-3 会社の資産・財産の取り扱い

MUFG およびグループ各社の有形・無形の資産・財産を守り、これを毀損するような行為を許しません。

- 会社資産を適切に利用し、サイバー関連リスク、不正アクセス、盗難、紛失、悪用等を防ぎます。またその利用状況を適切に管理します。
- 役職員ならびに第三者の情報の機密性と安全性ならびにプライバシーを守り、情報は業務上の必要性がある場合に限り、業務上の目的の範囲内で利用および提供し、適切に取り扱います。
- 前職の営業秘密を不正に持ち込むことや、社内の情報を不正な目的で持ち出すことはしません。

Check

「お客さま情報」は厳格な取り扱いが必要

私たちは、日々多くの「お客さまの情報」を扱い、「当社自身の重要情報」に触れています。これらの情報資産（無形資産）は、お客さまの預金等の現物と同様に扱わなければなりません。

私たちは、お客さまからの信頼を背景に、一般に公開されていないことも含まれる「お客さまの情報」をお預かりしています。「情報管理」の重要性が高まる中、日々の業務の中で我々はそれらの情報と接していることを意識する必要があります。お客さまの情報を取り扱う際には、手続・ルールのみならず、「Need to Know 原則」に則り、適切な人に、適切な情報を、適切に伝えることが大切です。

役職員のこうした自覚が大切なお客さまの情報を守ることに繋がります。

3-4 問題事象の報告・相談

法令・社則等や本行動規範に違反する行為等に気づいたら、速やかに職場の上席者に報告・相談、あるいは内部通報制度等を通じて報告します。

- 問題事象に対して「声をあげる」ことは職員の責務であることを自覚し、社内でおかしいと思うことがあれば、職場の上席者に速やかに報告する、もしくは、内部通報制度等を利用します。
- 報告や通報を受けた者はその情報を厳格に取り扱い、報告者や通報者に不利益が及ばないように対応します。
- 公的機関など社外への通報も含めて、通報者は、不正な目的がない限り、いかなる不利益を被ることなく保護されます。

MUFGグループ・コンプライアンス・ヘルプライン　連絡先（※）

西村あさひ法律事務所

住所　：〒100-8124　東京都千代田区大手町1-1-2　大手門タワー
西村あさひ法律事務所　MUFGグループ・コンプライアンス・ヘルプライン窓口
e-mail　：　mufgwhistleblow@nishimura.com（専用アドレス）

MUFG監査委員会

住所　：〒100-8330　東京都千代田区丸の内1-4-5
e-mail　：　mufg-group-helpline_kansaiinkai_PF@mufg.jp（専用アドレス）

※「自社（または親会社）の内部通報窓口」の連絡先は各社にてご確認ください。

Check

言ってくれてありがとう（Speak Up）

法令・社則や行動規範に照らして、懸念がある場合や質問がある場合には、「些細なことだからよいのではないか」「自分の感覚がおかしいのではないか」と思い悩むことなく、速やかに上司やコンプライアンス担当者に報告するか、内部通報窓口に連絡してください。
日頃から健全な問題意識を持ち、おかしいと思う時にはためらわずに声をあげることが、問題の未然防止や早期の自浄・改善に繋がります。

報告や通報をすることで、皆さんが報復やその他の不利益を受けることは一切ありません。通報者の探索等は各社の社内規定等で禁止されており、違反した場合は懲戒処分の対象となります。

通報者の保護を徹底しながら、指摘された問題には、経営の責任において、情報管理のうえ、実態調査を踏まえて誠実に対応します。

MEMO

編集・発行　三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
コンプライアンス統括部・経営企画部
2025 年 4 月